

二人の言葉が示す 新規就農者 五つの心得

古高 伸一

FURUTAKA Nobukazu

株式会社YACコンサルティング
常務取締役



農業法人における従業員採用・人材育成をテーマに、全国各地の農業法人協会で講演し、また日本公庫の課題解決サポート事業でもアドバイスをしてきました。

採用については「応募者を増やす方法」「採用する人材の見極め方」、人材育成については「新入社員への指導内容」「既存社員・管理職の育成方法」といった点に農業経営者の関心が高く、多くの質問を受けます。

➤ れらの質問を受けたときには、二人の農業法人経営者の言葉が思い浮かびます。お二方の共通点は、創業者であり、多くの困難を乗り越えて、いまでは大規模の飼養頭数、^{ほじょう}圃場面積を有して経営されていることです。

ふるたかのぶかず

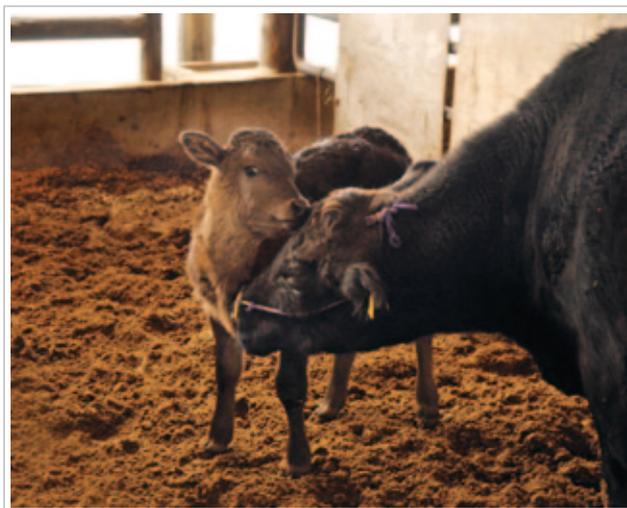
1963年大阪府出身。慶應義塾大学商学部卒。中小企業の経営計画、人事制度の策定、採用・人材育成など業務支援に携わる。一般社団法人全国農業経営専門会計人協会理事。宮城県農業経営アドバイザー連絡協議会会長。

肉用牛一貫生産・農業法人社長の言葉は「毎朝、牛舎を歩き牛の動きを見ていると、牛の声が聞こえ、牛がして欲しいことがわかる」というものです。

一方、稲作中心の多角経営・農業

こと」――。

生育や栽培方法の原理原則や、それぞれの作業の意味・目的を理解させることは必要です。他方、単なる知識としてではなく、



©河野千年

法人会長の言葉は「毎朝、圃場を一回りしていると、『ここが痛い、治してほしい』と、稲が訴えてくる」というものです。

これらの言葉には、新規就農者や農業従事者に求められる次の五つのことが含まれていると感じます。

すなわち、「本当に農業が好きであること」「生育や栽培に何よりも一番に取り組むこと」「常に、状態や動きをよく見る習慣を身につけること」「いつもとは違うところに気づくこと」。そして最後は「何をすべきなのか、まずは自分で考える

それらを元に実体験によりみずからが得た「生きた知識」を着実に習得させていくことも求められます。

今後、ICT・IoT・AIなどの先端技術によるスマート農業の導入によっては、たとえば、生育状況などの変化は容易に判明できることかもしれません。そこで、「生きた知識」を習得した技術習熟度の高い農業者が、これらの農機やシステムを活用し、不測の事態や困難な局面での意思決定や判断ができるようにすることこそが、次世代農業への継承・発展の課題である、と考えます。F

■ 農業経営アドバイザー

農業経営者のニーズに対応し、経営への総合的的確なアドバイスを実践する専門家です。2005年、農業経営の発展に寄与することを目的に日本公庫（当時、農林漁業金融公庫）が資格制度を創設しました。本コーナーは、上級資格である上級農業経営アドバイザーが執筆します。